

【文学部 哲学科】

専門科目

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問 1

A

- (1) 文章が明晰である。
- (2) 問われていることに関する見解が示されている。
- (3) (2) の見解が自らの見解になっている。
- (4) 見解の理由が示されている。

B

- (1) 文章が明晰である。
- (2) 問われていることに関する見解が示されている。
- (3) (2) の見解が自らの見解になっている。
- (4) 適切な具体例示されている。

問 2

(1) (ヒュームにおける) 因果

われわれが、原因と結果の間の必然的な結びつきとして理解している「因果」は、世界の側に実在するものではない。世界の側で成立しているのは、あるタイプの出来事に別のタイプの出来事が時間的・空間的に続けて生じるということにすぎない。それにもかかわらず、われわれがそこに「因果」を見て取ってしまうのは、そのような出来事の継起に対して、われわれが習慣的に思い描く必然的な結びつきを、世界の側に

投影しているからである。

(2) 社会契約

社会は規則や法律などにより個人の自由・権利が制限されることによって成立しているが、そのような規則・法律などの社会秩序の正統性を説明するために、社会秩序成立以前の自然状態において人々が結んだとされる仮想的な契約のこと。この契約において、人々が自らの自由・権利を制限してでもそれらの社会秩序に従うことをお互いに約束したからこそ、それらの社会秩序には政治的な権力が認められると説明される。

(3) (原始仏教における) 縁起

ゴータマ・ブッタの悟りの内容を表明する仏教の根本的な教理の一つである、生あるものが苦しみに至るのはなぜかを、その因果関係を遡ることによって示すと同時に、その苦しみから解放される方法をも示したもの。仏典にはさまざまな縁起説が説かれるが、最も包括的であり、また最も頻繁に現れる「十二支縁起」では、苦しみの最終的結末である「老死」から始まり、「無知」の状態としての「無明」にまで原因が遡られる。

(4) 宗教画

宗教画とは、宗教的なテーマや物語、進行の対象を描いた絵画のことで、宗教に関連する人物、出来事、象徴などを主題にしている。キリスト教における磔刑図や聖母子像、仏教における曼荼羅や地獄絵図などがよく知られた例であるが、イスラム教のように偶像崇拜禁止のために装飾やカリグラフィしか許されない宗教もある。宗教画は信仰心を表現するだけでなく、教育や礼拝の補助という役割もあり、芸術作品としても鑑賞されるようになった。

(5) ロマン主義

ロマン主義とは、18世紀後半から19世紀にかけてヨーロッパで広まった文化的・芸術的な思想や運動のことである。理性や秩序を重視した啓蒙主義や古典主義への反動として生まれ、人間の感情、個人の感受性、自然の神秘性、過去や異国への憧れ、想像力や幻想などを重視するのを特徴とした。文学、音楽、美術、哲学など様々な分野に表れ、人間の自由や主観性を評価することによって、近代以降の芸術や思想の在り方に大きな影響を与えた。

(6) 浮世絵版画

浮世絵版画とは、江戸時代の日本で発展した木版画による大衆向けの絵画表現の一つである。「浮世絵」の中でも肉筆画ではなく印刷された作品を指し、版元の統括の下に絵師、彫師、摺師という三者の分業で制作された。浮世絵版画のジャンルには、美人画、役者絵、名所絵、武者絵、相撲絵、春画などがあり、当時の庶民文化が豊かに息づいている。19世紀後半にはゴッホや印象派の絵画たちに影響を与え、西洋美術におけるジャポニズムの原動力の一つとなった。